

令和7年2月5日（水）

令和6年度 東京都発達障害者支援地域協議会

令和6年度

# 東京都成人期発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業 活動報告

①専門人材育成・実地研修

②情報収集・提供

③ネットワーク構築・運営



# ①-1.専門人材育成研修・実地研修※ハイブリッド開催

2 申込件数N=75、うち医師は33名(44%)、看護師11名(14%)、心理士17名(22%)、作業療法士5名、精神保健福祉士7名

| 開催日       | 内容                                           | 講師 敬称略                                           | 参加総数                   |
|-----------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|------------------------|
| 8月25日(日)  | 専門医が教える診察場面でのポイント、診断書の書き方                    | 加藤 進昌<br>(公益財団法人神経研究所 理事長・精神科医)                  | 34機関<br>48名<br>(医師25名) |
|           | 産業保健活動での発達障害支援<br>～産業医として経験した事例、産業医との連携～     | 小林 靖<br>(こころ診療所 精神科医)                            |                        |
|           | 発達障害と親なき後                                    | 五十嵐 美紀<br>(昭和大学発達障害医療研究所 精神保健福祉士)                |                        |
| 9月29日(日)  | ユニバーサルグループの実践<br>～誰にとっても参加しやすく効果的なグループの取り組み～ | 関根 知彦<br>(まちどろクリニック臨床心理士・公認心理師)                  | 31機関<br>48名<br>(医師20名) |
|           | 意思決定の特徴から考えるASDとADHD                         | 藤野 純也<br>(東京科学大学 精神行動医科学分野講師・精神科医)               |                        |
| 10月29日(日) | ADHDの診療                                      | 幡手 隆雄<br>(小石川東京病院 精神科医)                          | 30機関<br>47名<br>(医師16名) |
|           | 小児期における高次脳機能障害                               | 上田 敬太<br>(京都光華女子大学教授・精神科医)                       |                        |
| 11月23日(祝) | 限局性学習症～臨床事例を中心に～                             | 丹治 和世<br>(小石川東京病院 副院長・精神科医)                      | 30機関<br>42名<br>(医師16名) |
|           | ASDとカモフラージュ～CAT-Qからわかること～<br>①理論編、②実務編       | 藤川 洋子<br>(京都工芸繊維大学特任教授)<br>三好 智子<br>(京都工芸繊維大学教授) |                        |
| 12月10日(日) |                                              |                                                  | 25機関<br>35名<br>(医師13名) |

# ①-1.専門人材育成研修 各回満足度

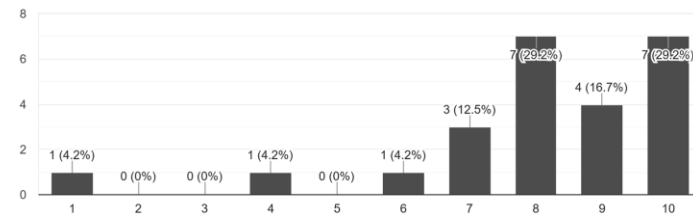
3

参加動機：「業務に活かすため」「発達障害に関する知識を得るため」（各79.2%）、「テーマに関心あり」（62.5%）が上位を占めた

Q5. 座学①

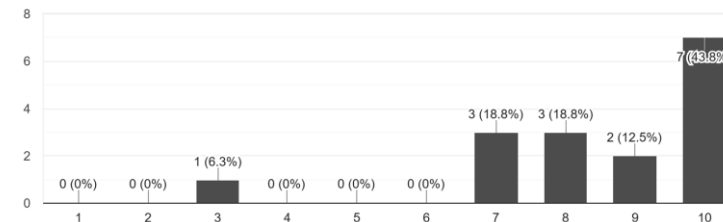
「専門医が教える診察場面でのポイント、診断書の書き方」を10点満点で採点すると何点ですか？

24件の回答



Q6. 座学④「施設基準を満たさないクリニックで...実践～」を10点満点で採点すると何点ですか？

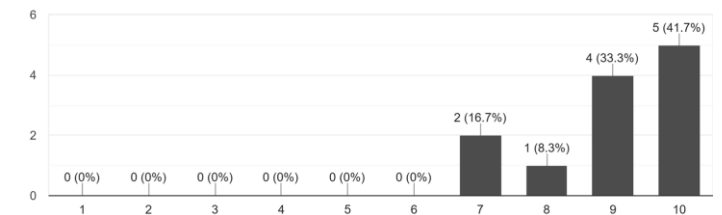
16件の回答



Q5. 座学⑦

丹治先生「限局性学習症～臨床事例を中心に～」を10点満点で採点すると何点ですか？

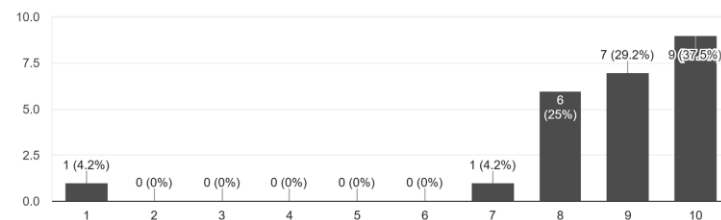
12件の回答



Q6. 座学②

「産業界として経験した事例、産業界との連携」を10点満点で採点すると何点ですか？

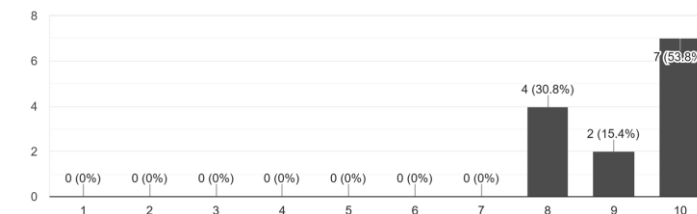
24件の回答



Q5. 座学⑤

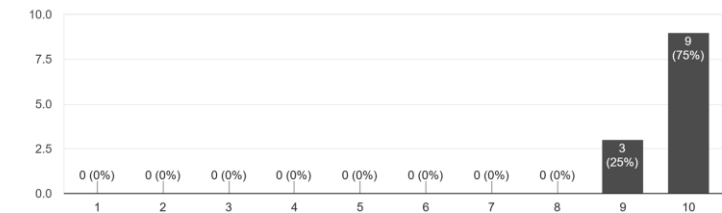
藤野先生「意思決定の特徴から考えるASDとADHD」を10点満点で採点すると何点ですか？

13件の回答



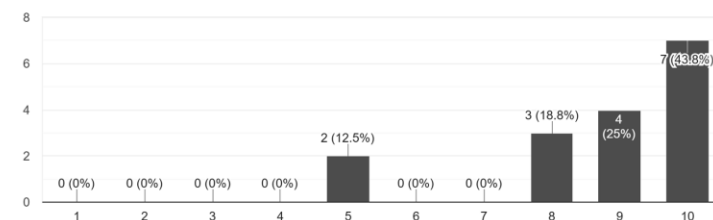
Q6. 座学⑧上田先生「小児期における高次脳機能障害」を10点満点で採点すると何点ですか？

12件の回答



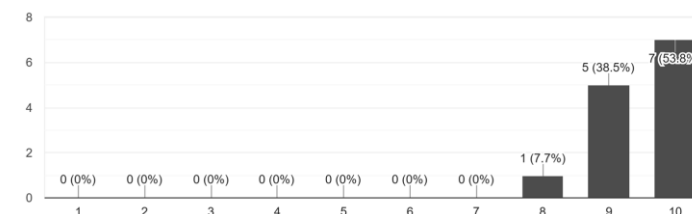
Q5. 座学③「発達障害と親なきあと」を10点満点で採点すると何点ですか？

16件の回答



Q6. 座学⑥幡手先生「ADHD診療の実際」を10点満点で採点すると何点ですか？

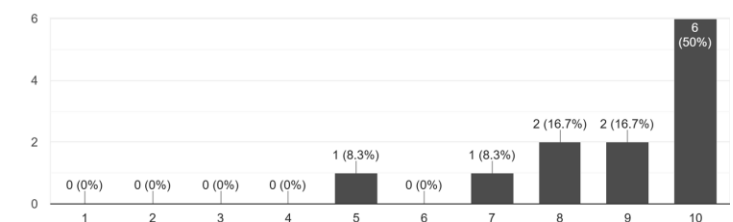
13件の回答



Q5. 座学⑨-1理論編

三好先生「ASDとカモフラージュ」を10点満点で採点すると何点ですか？

12件の回答



## ①-1.参加者の声 ※一部抜粋

4

### <1日目>

・「ASDに加えADHDに関する診断や薬物治療の実際をより知ることが出来ました」「産業医がどのように活動しているかの実際を具体的に知ることができ、連携に関する情報も参考になりました」など

### <2日目>

・「親亡き後について、本人たちへのアプローチの仕方について学ぶことが出来ました。本人の大切にしているものも含めて、意思決定支援する大切さを実感しました」「家族を巻き込む支援の方法のヒントが得られました」など

### <3日目>

・「行動経済学の視点からの整理は、対処の工夫を検討する際に、とても役立ちそうで、興味深く聴かせていただきました」「ADHDの理解に、SCTについて初めて知ることができ、理解を広げることができました」など

### <4日目>

・「LDや高次脳機能障害など、検査や支援についてヒントを頂きました。事例が考えさせられる点が多く、ありがとうございました」「学習障害、高次脳機能障害について、症例交え、具体的にどういふことがあるのか、どのように精査して診立てしていくのかなど詳しく知ることができました」など

### <5日目>

・「カモフラージュという視点からも診てみたい」「『問題の核心は所属感』勉強になりました」、「事例の方の就活場面の具体例勉強になりました」など

## ①-2.実地研修等

### <発達障害専門外来陪席>

#### ●4機関

- ・こころ診療所吉祥寺駅前 1名
- ・陽和病院 1名
- ・国立精神・神経医療センター病院 1名
- ・多摩総合医療センター病院 1名

### <発達障害専門デイケア見学>

#### ●2機関

- ・後藤クリニック 3名
- ・陽和病院 2名×4日

### <医療機関訪問・助言等>

#### ●6機関

- ・大内病院 3回
- ・後藤クリニック 7回 ★令和7年1月よりASD専門プログラム導入
- ・小石川メンタルクリニック 1回
- ・市ヶ谷ひもろぎクリニック 1回
- ・陽和病院 3回
- ・ストレスケア東京上野駅前クリニック 1回

## ②情報収集・提供

5

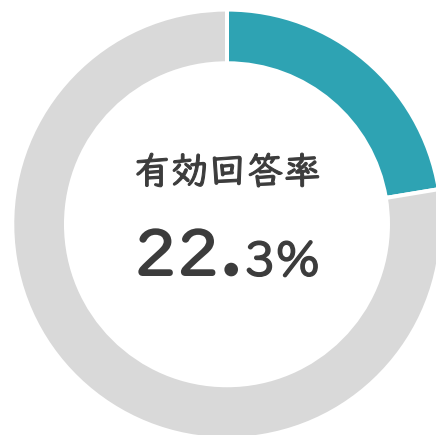


・「発達障害」をキーワードに抽出された603の医療機関に、専門人材育成研修の案内とともにアンケート調査を実施

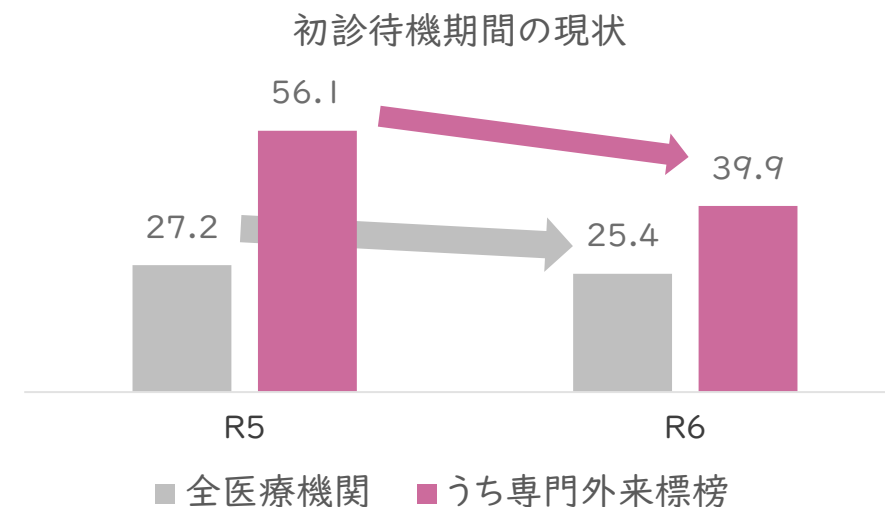
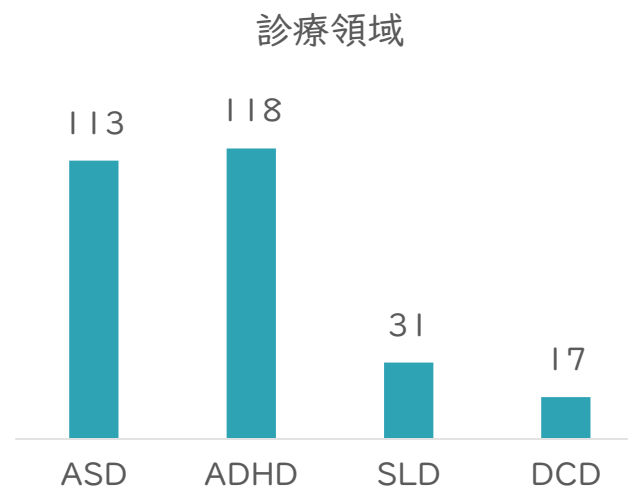
・回答方法: 郵送 (料金受取人払い)、Googleフォームの併用

・期間: 令和6年7月17日～10月30日

・提供: 都民からの相談が多いTOSCAに情報提供を行っている



N=603, n=135



※専門外来標榜機関で、初診までの待機期間即日受入れが2機関あり

# ③ネットワーク運営・構築

6

## <診療体制検討協議会>

- 第1回:令和6年6月3日(月) 18:30~19:30 オンライン開催  
・出席機関:東京都福祉保健局、公益財団法人神経研究所(都拠点)、医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック(区部拠点)、特定医療法人研精会稲城台病院(多摩地区拠点)、成人発達障害支援学会(オブザーバー)  
・議題:令和6年度研修等実施計画、地域の成人発達障害診療・支援情報共有、おとなTOSCAに寄せられる相談から、初診待機解消に向けた各圏域での働きかけ等
- 第2回:令和7年3月17日(月) 18:30~19:30 オンライン開催

## <区部圏域連絡会・研修会> 主催:区部拠点医療機関

- 第1回圏域連絡会  
令和6年8月18日(日)13:00~14:30
- 圏域研修会・第2回圏域連絡会  
令和7年1月26日(日)13:30~15:00、15:30~16:30  
「成年期発達障害の外来診療と社会的支援の現在」  
講師:柏 淳 氏(ハートクリニック横浜 院長)

## <多摩地区圏域連絡会・研修会> 主催:多摩地区拠点医療機関

- 第1回圏域連絡会  
令和6年7月7日(日)10:00~11:30
- 圏域研修会・第2回圏域連絡会  
令和6年10月20日(日)13:00~14:30、15:00~16:00  
「発達障害と睡眠」  
講師:伊東 若子 氏(小石川東京病院 睡眠外来医師)



### 都内医療機関向け 年度末研修のお知らせ

3月16日(日)9:50~13:00  
オンライン開催 ZOOMを使用します

東京都発達障害専門医療機関ネットワーク構築事業

#### 内容



1.開会挨拶  
東京都福祉局障害者施策推進部精神保健医療課  
課長代理 吉田 昌一 様(事前撮影動画配信)



2.講演 (9:55~11:20)  
「愛着障害支援から見る  
『愛着障害』と『発達障害』の違い」  
講師:和歌山大学教育学部教授 米澤 好史 先生  
<講師紹介>  
1988年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程(心理学専攻)  
1988年~和歌山大学教育学部助手・専任講師・助教授を経て、  
2004年~和歌山大学教育学部教授  
[専門]臨床発達心理学・実践教育心理学  
[資格]臨床発達心理士SV、学校心理士SV など



3.事例紹介  
「(成人期)発達障害外来に  
つながった愛着障害の事例」  
講師:小石川東京病院 臨床心理士 川嶋 真紀子 先生



4.事業活動報告  
「令和6年度事業活動報告」  
報告者:公益財団法人神経研究所 桑野 大輔  
(発達障害医療コーディネーター)

東京都福祉局精神保健医療課/公益財団法人神経研究所

## 愛着障害

必ず  
修復  
できる

は  
何  
歳  
か  
ら  
で  
も

米澤好史

宮田 玄樹

### お申込み

申込み期限  
3月13日(木)17:00まで

### お問合せ先

公益財団法人神経研究所  
発達障害医療コーディネーター 桑野 大輔  
〒112-0012 東京都文京区大塚4-45-16  
電話 03-3944-2255  
メール [tokyo-mw-network@ionp.or.jp](mailto:tokyo-mw-network@ionp.or.jp)

### 発達障害専門医療機関ネットワーク 構築事業とは

都内における発達障害の診断待機を解消するため、  
専門性の高い医療機関を中心としたネットワークを  
構築し、都内の医療機関への研修等を実施すること  
で発達障害を早期に診断可能な体制確保を図ること  
を目的とした事業です。  
令和2年度から東京都が公益財団法人神経研究所に  
委託して実施しています。

・専門人材育成研修では、**医師の申し込みが44%**であり、年々増加傾向にある。回によっては、医師の参加者が半数を超えることもあった。しかし**回を重ねるに従って**、医師だけでなく全体の参加者が**微減傾向**にある。祝日開催や12月開催の影響も考えられなくはないが、**医師の関心に添えていない可能性**が考えられる。多角的な視点、たとえば医療にも近接する教育領域などにおける講師調整なども前向きに検討をしていく。

・医療機関の待機状況は、今年度の調査では**短縮傾向**にあったが、その理由として一部の発達障害専門外来医療機関が未回答であったこと、一方で**専門外来を標榜する医療機関において初診待機がない機関が存在**したことによるものであると考えられる。そもそも「専門外来」とは何かという定義自体が調査項目において曖昧かつ回答者の判断によるところもあり、そうした事情も待機期間に影響を及ぼしているものと推察される。

・発達障害支援学会大阪大会において、東京都の取組み報告を行った。それにより、同会に参加していた都内**区部の医療機関**から**発達障害専門プログラム導入支援の依頼**を受けた。同医療機関ではADHDしか診ていなかったが、実際に来院する患者の半数以上がASDであり、支援の必要性を感じていてとの理由であった。同プログラム導入に向け、複数回の導入準備支援を行ったことにより、区部では1機関の増加につながった。

一方で多摩地区では、都拠点研修に参加する医療機関は増加してきているものの、新たに「診断後の支援」の導入に関心を持っているという情報をつかみきれておらず、今後の課題である。